

子羊、家畜人工授精は私の原点

延原 昭(岡山県家畜人工授精師協会会長：J A 中央O B)

1. 私が歩んだ畜産一筋の道

三徳塾に入塾した頃、臨月になっていた緬羊が死亡した。帝王切開で胎児を取り出し、子羊は助かった。本科生の中で「だれか子羊を育ててみたいものはないか」と言われ、「私にやらせて下さい」と私が手を上げました。畜産担当の先生の指導を受けて立派に育てました。このことについて、当時の三木岡山県知事の前で緬羊を連れて行って発表しました。この子羊を育てたことが、今日まで、私が畜産一筋に頑張った原点だと思っています。

塾での2年間で創立者矢野恒太翁の塾建学の精神である勤労精神を体得し、農業経営に自信のもてる農業者、畜産農家になるべく研究科において、畜産を専攻し、すべての家畜の勉強をさせていただきました。終了後、中国酪農講習所に進学し、一年間で酪農の勉強と家畜人工授精の免許を習得し、岡山県家畜人工授精所に勤務させていただき、乳牛、和牛、種牛の管理、精液の採取、処理、配布、人工授精業務を行いました。私は公舎での自炊生活で一日24時間、所長をはじめ、職員の皆さんには、大変お世話になり、たくさんの知識を学びました。

家畜人工授精所は現在の岡山市西辛川(旧御津郡一宮町)で、この地で成人(20歳)になりました。

その後、地元の農協に帰り(旧中央町)牛の人工授精と畜産業務を行い、昭和50年に畜産センターを設立することができ、町、農業共済連、農協の三者が一体となり、県下唯一の機関として、業務を行い、中央町畜産の一時期を築くことができ、ともに働いた農業共済連の獣医先生、町、農協の職員の皆さんに感謝の気持ちでいっぱいです。

2. 私の歩んだ主な出来事

昭和28年、小学校4年生、11歳の頃、近所の農家で牛の人工授精(家畜保健所)を見て、将

来自分でやりたい、勉強したい技術だと思った。

昭和33年、中学3年生、15歳の頃、学校の顕微鏡で自分の精子を見る。家畜人工授精師の資格を取りたいと思うようになる。

昭和34年、17歳、三徳塾で畜産を専攻し酪農家になる夢を見る。

昭和35年、18歳、中国酪農講習所に入り、農高を卒業している1歳年上の同期生19名と学んだが、人工授精師資格取得試験は、よく勉強して上位で合格してうれしかった。

昭和36年、酪農講習所を卒業しましたが、酪農のことや人工授精をどこかで勉強して酪農家になりたいと先生にお願いしていました。私の隣の柵原町の酪農指導員として役場に行けと言われて承諾したものの、町の正職員では家畜人工授精の技術を勉強することができないと思い、県の家畜人工授精所に使ってもらうことにしました。日給300円から人工授精師としての仕事が始まり、種牡牛の管理、精液の採取、処理など好きな仕事がやれることがうれしく、自動二輪(メグロ350)に乗って酪農家に授精に行かせていただいた時のことが、今でも鮮明に思い出されます。

昭和39年、県庁9階ホールでの岡山県家畜人工授精師協会設立総会に参加し、現在まで続いて協会のお世話をさせていただいていることをうれしく思います。

同じ年、昭和39年9月、地元の農協で働くことになりました。5年間、人工授精師は私一人で、1日の授精頭数は多い時には10頭以上、少ない時でも3~5頭で、他の畜産の仕事もあり、大変な毎日でした。

畜産振興には専任の人工授精師を育てなければと思い、後輩3名を授精師として育てました。今でも2名は現役の授精師です。

昭和39~40年は津山家畜市場の年間の上場頭数が1万頭で、世界一の和牛市場だと言われ、

当時の中央町から月に100頭（2日で）上場したこともありました。市場は1ヶ月に3～4日開設されていました。

昭和50年中央町畜産センターを開設したことで、補助事業を農協が事業主体となって取組み、このことで町と一体となり畜産農家を育てることができました。又、畜産センターの最大のメリットは、獣医師と授精師が一体となって行う受精卵移植を初め、家畜の損害防止、防疫など指導の窓口の一本化であり、これにより成果を上げることができました。

昭和50年、全国農業共済協会の海外農業視察に参加(欧州7ヶ国、15日間)しました。

昭和52年、糸藤号の精液供用が始まり、後に県が作出した名牛「利花」の母牛、はなや6が町内で誕生しました。糸藤が死亡する一年前に糸藤の立姿の備前焼を私の薦めで和牛繁殖農家の田中

整さんが作成されました。それを総合畜産センターと家畜市場へ寄贈されました。

畜産公社が貸し付けをした和牛が導入時子牛時価の3倍から4倍で販売できたこともうれしい思い出です。

昭和57年に乳牛が1千頭を突破。(37戸)また、中央牧場が1千頭以上の大牧場となりました。

平成5年、国道53号線沿いに物産センターを設立し、生産者が組合を作って、自主運営で発足し、平成10年に年間販売実績1億円を突破、県下でも名の通ったセンターになりました。

以上、投稿依頼を受けて思いつくまま、私の歩んだ畜産の道をふり返り書かせていただきました。

最後になりましたが、畜産を取り巻く環境が厳しい時、県家畜人工授精師協会会長として微力を尽くすつもりです。今後とも皆さまよろしくお願ひ申し上げます。

岡山県家畜人工授精所での種牡牛の管理風景